



【上から】公民館には杉板にしたためられた歌詞が／歌いあげる柴田榮さん。隣で手を叩く秋田屋純さんが作詞を手掛けた／矢口区長のほか地区の皆さんから大きな拍手

金山町では初となる地区の歌として、『ふるさと下向』が制作され、2月9日には下向公民館を会場に発表会が開催されました。

楽曲制作は「地区に活気をもたらしたい」と、矢口区助区長たつての希望。地区と親交の深い方々に制作を依頼し、秋田屋純さんが作詞、柴田榮さんが作曲を手掛けました。発表会で、秋田屋純さんは「詞は、下向から望む野山

下

向地区が町では初となる地区の歌を制作『ふるさと下向』

の光景や新緑の眩しさをイメージした。孫の世代まで歌い継がれる曲になってほしい」と思いを語っていました。その後、柴田榮さんが歌いあげると、集まった約30名の住民らは「良い歌だ」と諸手を挙げて大絶賛。大きな拍手に包まれていました。3、4年前から構想を練っていた矢口区長にとっては、やっとこぎつけた発表。「こんなに嬉しいことはない」と笑顔で話していました。

谷

口銀山史跡保存会が登録「未来に伝える山形の宝」として後世に

地域に残る文化財を保存・活用する取り組みを登録する「未来に伝える山形の宝」。山形県が行うこの活動に、谷口銀山史跡保存会の取り組み「采華を誇った谷口銀山在りし日の情景を後世へ」が登録されました。

新庄藩初期の財政に貢献したと伝わる谷口銀山。その史跡や関連する文化財の丁寧な保存活動が評価されました。井上敬助会長（谷口）は「見たり触ったり、体験することで歴史を広く発信していきたい。地区の宝を後世に受け継いでいく」と話していました。



2月5日には吉村県知事から井上会長に登録証が交付された



「金山が好きか」との川崎社長の質問に、児童の皆さんはすぐに手を挙げた

明

安小で「未来を考えるプロジェクト」
(株)ここからの川崎社長が講話

明安小学校の5・6年生が総合学習で取り組んでいる「金山の未来を考えるプロジェクト」。1月16日には、一昨年から挑戦しているミニトマトや落花生などの地元産品を使ったデザート開発の成果を発表しました。ゲストとして招かれた

(株)ここからの川崎社長は講話で、まちづくりについて「金山のファンをつくるのが大切。皆さんの取り組みもその一助となるもの。金山のことをたくさん学んで大人になってほしい」と話し、児童らはうなずきながら熱心に聞いていました。

創

喜創楽で「ものづくり」の楽しさを
家族連れらがゆったりと休日を楽しむ

ものづくりの楽しさや喜びを感じるイベント「喜創楽」が2月11日、認定こども園めぐたまで開かれ、町内外からの来場者で賑わいました。オリジナルキャンドルや髪飾りなどを手作りできるワークショップのほか、飲食店など15ブースが出店。

家族連れは、ゆったりと休日を楽しんでいました。また屋外では、雪板で遊べるコーナーも。雪を盛って作られた特設ミニコースでは、何度も転びながらも不安定な雪板の滑走に挑戦する若者や子どもたちの笑い声であふれていました。



出店者との会話をしみながら時間を気にせず買い物をするのも醍醐味

広

報かねやまが最高賞の「特選」を受賞
山形県市町村広報コンクール

令和元年度山形県市町村広報コンクールの審査結果が発表され、広報かねやま11月号が「広報紙の部（町村部）」において、最高賞の特選を受賞し、全国広報コンクールに推薦されることになりました。

広報コンクールは年に一度、各市町村が自慢の広報紙を応募して、表現力や技術力を審査されるもの。当該紙面は「落花生に力を入れていることが伝わってくる。全体的に熱い思い、エネルギーを感じる一冊」と評価されました。また、5月号表紙が「一枚写真の部」で入選2席、11月号16、17ページが「組み写真の部」において入選1席を受賞。どちらも子どもたちを中心に撮影した写真が選ばれました。

受賞は町民の皆さんあつてのこと。制作にご協力をいただいている皆さんに感謝します。これからもより良い広報紙づくりに努めていきます。



【左から】「広報紙の部（町村部）」で特選を受賞した11月号表紙／同号特集の「落花生の可能性」／「一枚写真の部」で入選した5月号表紙は大堰鯉の放流／子供伝統芸能発表会での子どもたちの勇姿が「組み写真の部」で入選



「MOKU」の3人と有屋小の児童。恵方巻は心を込めて手渡された

地

域で活動する女子大生3人組「MOKU」
有屋小児童に恵方巻をプレゼント

「MOKU」というグループで活動する山形大学4年生の3人組が2月7日、有屋小学校を訪れ、大根の栽培から手掛けたいぶりがつこを使った恵方巻を全校児童にプレゼントしました。

メンバーは金山が大好きな澤木美佳さん、安孫子芽生さん、本田鈴香さん。

共通のサークル活動で金山と出会い、現在は時間のあふる時に遊学の森を拠点として、金山の伝統的な行事や料理を楽しんでいるそうです。3人は「金山は第2の故郷のような存在。卒業後はみんな山形を離れるが、町とは関わりを持っていたい」と話していました。